

国際社会学科について

—父母懇談会 資料—

東洋大学社会学部

目次

1. 国際社会学科のめざすもの
2. 3つのポリシー
3. 多彩な教員たち
4. カリキュラムの特徴
5. 学科の特色ある取り組み
6. 卒業後のキャリアと取得できる資格

1. 国際社会学科のめざすもの

多様性を尊重する多文化共生社会実現に向けて

グローバル・シティズンシップ教育を行います。

グローバル・シティズンシップ教育

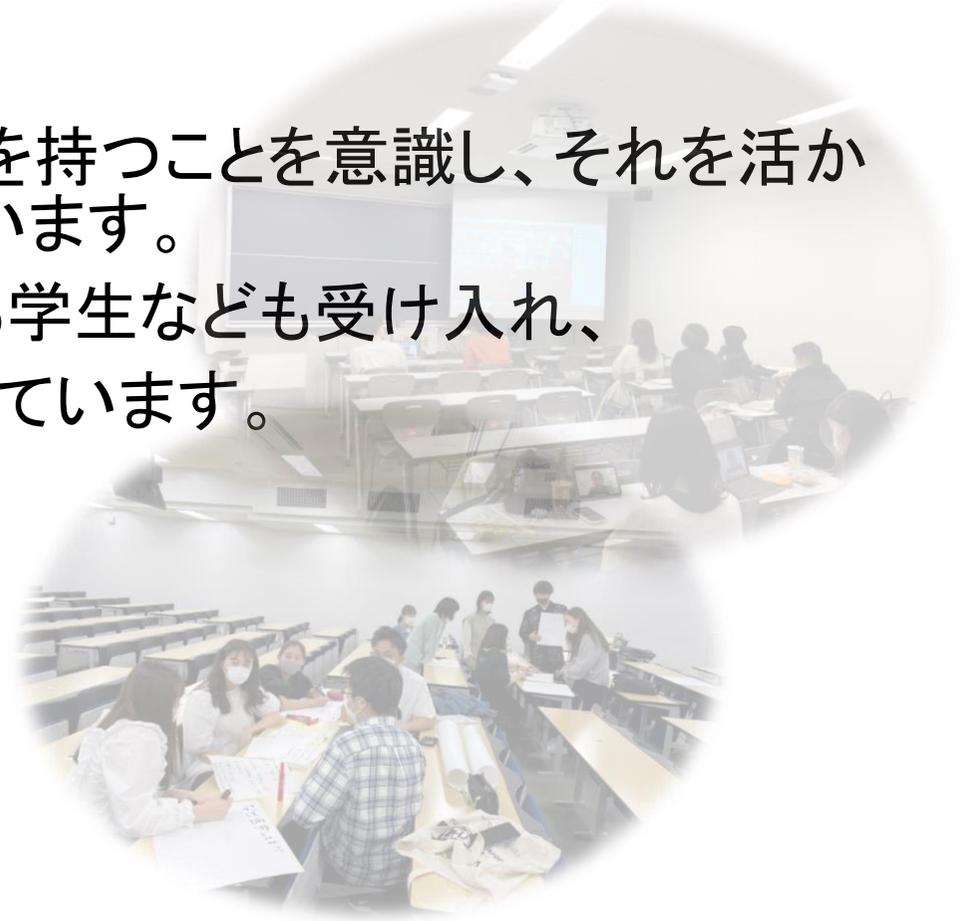
ユネスコがSDGs（持続可能な開発目標）のもとで目指すグローバルな教育のあり方です。価値観や生き方の多様性を認め合い、批判的かつ建設的に現代社会の諸問題を理解し、その創造的な解決策を生みだして国際社会に参画する〈地球市民〉としての資質・態度を養う教育



本学科は
グローバル化を巡る社会学、文化人類学、地域研究
を学問基盤として、
学生がグローバル・シティズンになるための
現場立脚型教育を提供します。

多様な学生が活躍できる学びの場をめざして

- 本学科では、すべての学生が多様性を持つことを意識し、それを活かした学びの場にしていくことをめざしています。
- 積極的に留学生、外国をルーツとする学生なども受け入れ、留学の送り出し、英語学習に力を入れています。
 - 学生同士の助け合い／学び合い
 - 授業、活動、イベント
 - 先輩が支援できるような関係性づくり



国際社会学科の「3つのポリシー」については、
下記のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.toyo.ac.jp/academics/faculty/soc/dgds/special/>

<http://www.toyo.ac.jp/nyushi/undergraduate/soc/policy/>

■ 「3つのポリシー」とは？

1. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

3.多彩な教員たち

井沢 泰樹 (金 泰泳)	教授	共生社会学、人権・差別・共生論、多文化共生論
岩瀬 由佳	教授	英語圏文学 (旧イギリス領カリブ海地域の文学)
姜 英淑	准教授	企業福祉、企業文化
小林 正夫	教授	人文地理学
ゴロウィナ クセーニヤ	准教授	文化人類学
左地 亮子	准教授	文化人類学、ジプシー／ロマ研究
ズルエタ オルヒレス ジョハンナ	教授	社会学 (移民研究、エスニシティ論、ジェンダー、家族、高齢化)
高橋 典史	教授	宗教社会学
田所 聖志	教授	文化人類学、オセアニア地域研究
長津 一史	教授	東南アジア地域研究、文化人類学
波佐間 逸博	教授	人類学、アフリカ研究
平島 みさ (奥村 みさ)	教授	文化社会学、比較社会学、比較文化論、映像文化論
三沢 伸生	教授	中東社会経済史
村上 一基	准教授	国際社会学、都市社会学、フランス地域研究
山田 香織	講師	ドイツ地域研究、観光人類学、ドイツ語教育

<https://www.toyo.ac.jp/academics/faculty/soc/dgds/dgds-professor/>

国際社会学科のカリキュラムの特徴としては、

- ① 国内外でのフィールドワークや社会貢献活動
- ② 知の基盤となる専門知識の習得
- ③ 国際社会と多文化共生に関する専門知識の応用と実践
- ④ 充実した英語開講科目（ゼミ、専門講義）

☆カリキュラムマップ

		1年次	2年次	3年次	4年次
体験演習系統		国際社会体験演習	国際社会プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ (継続履修推奨)		
	ゼミ系統	国際社会論基礎演習	国際社会論演習Ⅰ 国際社会調査実習	国際社会論演習Ⅱ／Ⅲ (継続履修)	
入門講義系統		国際社会概論 ダイバーシティ概論			
基礎講義系統		グローバル化の社会学／共生社会学 文化人類学／現代人類学			
講義系統	地域の多様性を 知る・調べる	日本社会文化論、アジア社会文化論、アフリカ社会文化論 南北アメリカ社会文化論、中東社会文化論、ヨーロッパ社会文化論			
	人びとの多様性と 調和を考える	イスラーム世界論、移民論、内なる国際化、環境と開発、マイノリティの人類学、 言語と文化、いのちの社会学、現代紛争論、ジェンダー文化論など			
	現代社会の見方 を学ぶ	文化社会学、宗教社会学、人文地理学、多文化共生論、社会運動の社会学、 市民社会論、Multiculturalism in a Globalizing World など			
外国語系統		外国語科目（初級） (英・独・仏・中・ハンブル)	外国語科目（中級） (英・独・仏・中・ハンブル)	外国語および社会事情 (英・独・仏・中・ハンブル)	

☆知の基盤となる専門講義科目

3つの科目群を通じて学生は、世界各地の文化の多様性、〈ちがうこと〉をめぐる現代世界の諸問題について学び、グローバル化の社会文化的な側面を理解します。

人びとの多様性と
調和を考える

例 ・移民論 ・環境と開発
・現代紛争論 ・ジェンダー文化論

地域の多様性を知る

例 ・南北アメリカ・アフリカ
・アジア・中東(各社会文化論)

例 ・宗教社会学 ・多文化共生論
・市民社会論

現代社会の見方を学ぶ

☆現場に根ざした学びの展開

2年次

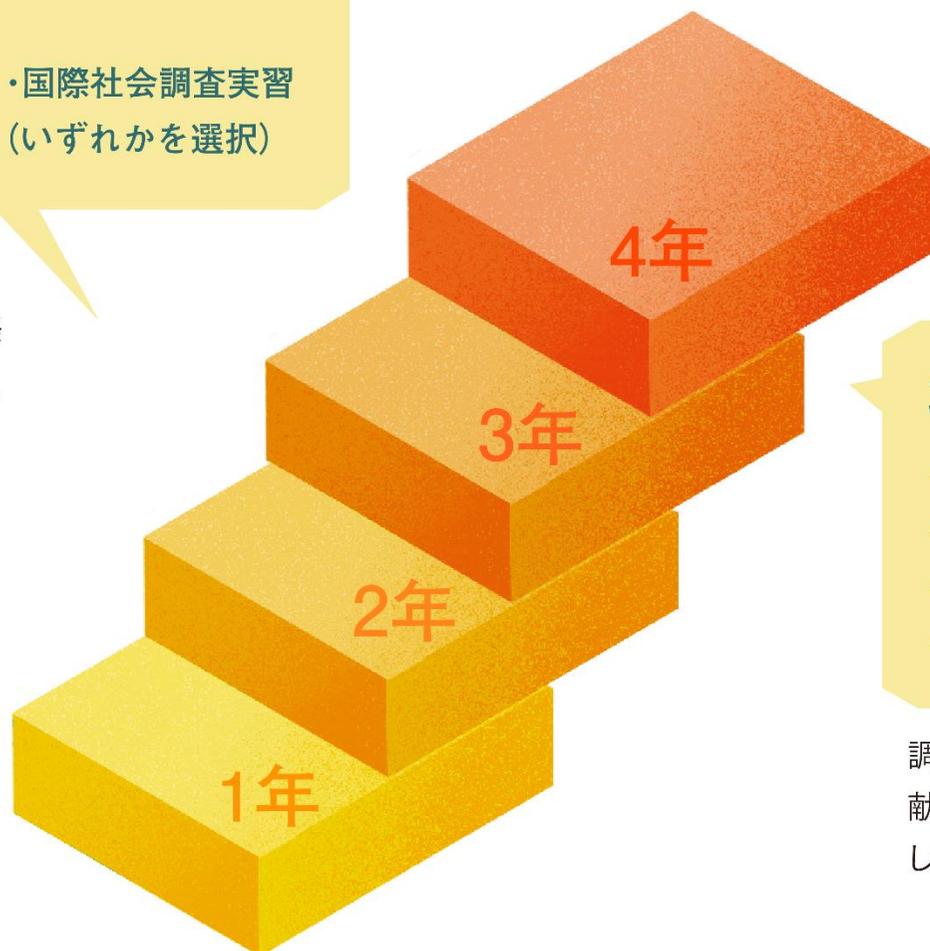
- ・国際社会プロジェクト演習Ⅰ
- ・国際社会調査実習
(いずれかを選択)
- ・国際社会論演習Ⅰ

海外フィールドワーク、国内サービス・ラーニング、社会調査などを通じて国際社会に関する実践的な学びを深めます。

1年次

- ・国際社会体験演習
- ・国際社会論基礎演習

基礎的な多文化コミュニケーション力を身につけます。



3・4年次

- ・国際社会論演習Ⅱ/Ⅲ
- ・国際社会プロジェクト演習Ⅱ
- ・ボランティアとインターンシップ
- ・卒業論文

調査テーマを自ら設定してフィールドワークや文献調査を行い、調査報告書や卒業論文(選択)として総合し、学びの集大成とします。

「体験演習」科目群

フィールドワークを軸とする現場立脚型の体験学習

①初年次

必修科目「**国際社会体験演習**」では、少人数でグローバル化や多文化共生の現場を体験し、国際社会に関する問題意識を高め、さらには海外留学やインターンへの動機づけとします。

②2年次以降の演習科目群

- ・「**国際社会プロジェクト演習**」
- ・「**国際社会論演習**」

⇒ グローバル化の仕組みや関係性を理解するとともに、仲間とのチームワーク力や多様な人びととの協働力を身につけます。

① 国際社会体験演習（初年次必修科目）

国内外10コースのプログラムが準備されています。

以下、今年度実施予定の事例

- ・ 東京と横浜で日本の近代化、都市のグローバル化について主に宗教と文化から多文化共生を考える。
- ・ 宮城県の外国人技能実習生と日本の地域のグローバル化について考える。
- ・ シンガポールで多民族社会と文化を体験する
- ・ フィリピン（マニラ）で英語研修に参加する

※新型コロナウイルス感染状況により、内容を変更することがあります。



●東京・横浜コース（国内）

都内の寺社、モスクや教会、また横浜旧居留地や中華街を巡り日本の近代化やグローバル化について、とくに宗教や文化を中心に学修する。



●シンガポールコース(海外)

現地大学生や市民とともに、多民族国家シンガポールを歩き・見て・聞き・食べながら多民族社会を体験し、日本とアジアとの歴史的な関係を語り合う。

※新型コロナ感染状況により、内容を変更することがあります。



● フィリピン英語研修コース(海外)

名門アテネオ・デ・マニラ大学にて、短期集中で実践的な英語を学びつつ、100以上の言語が話されている多文化都市マニラの生活様式も体験する。

※新型コロナ感染状況により、内容を変更することがあります。



②国際プロジェクト演習

(2年次,3年次選択科目)

- 多文化共生分野(国内)
- 国際理解分野(海外)
- キャリア分野(海外)



●国際社会プロジェクト演習 1(国内)ー多文化共生分野

「多文化共生の地域社会をつくる域学連携教育プロジェクト」

外国籍の住民増加や少子高齢化が進む都内地域で、社会が抱える課題について調査し、現地住民とともに課題解決のためのプロジェクト立案・実施する。



●国際社会プロジェクト演習 2(海外)ー国際理解分野 エビの向こうに何かを見よう！ ーモノ研究で識る世界と日本ー

フィールドワークの楽しさを体験しつつ、インドネシアのエビ生産をめぐるグローバルな関係性を調べる。

※新型コロナ感染状況により、内容を変更することがあります。



●国際社会プロジェクト演習 3(海外)ーキャリア分野 パプアニューギニア現地実習で学ぶ地球環境問題 ー自分たちで実習内容をカスタマイズしよう！ー



- 地球環境問題には、経済発展と環境保全をめぐるローカルな価値観とグローバルな価値観の対立が見られる。
- パプアニューギニアはその現状を観察しやすい場所である。
- 受講者は、事前学習を通じて実習内容をカスタマイズする。現地実習では、経済発展、環境汚染、気候変動の影響を視察し、地球環境問題と関わるローカルな価値観とグローバルな価値観の対立について考える。この経験を将来のキャリア形成で活かすことを狙う。

※新型コロナ感染状況により、内容を変更することがあります。



海外留学について

本学科では協定校等への海外留学を推奨し、積極的にサポートしています。

* 本学の国際交流の取り組みについては、下記のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.toyo.ac.jp/ja-JP/international-exchange/>



6.卒業後のキャリアと

取得できる資格

想定される卒業後の進路例

- 一般企業の海外営業部門、商社、貿易関係の企業。
- 国家公務員や自治体公務員(多文化共生支援課等)
- 多国籍企業の職員
- 国際機関、NGO/NPO等の職員

取得可能な資格

- 社会調査士、宗教文化士、博物館学芸員

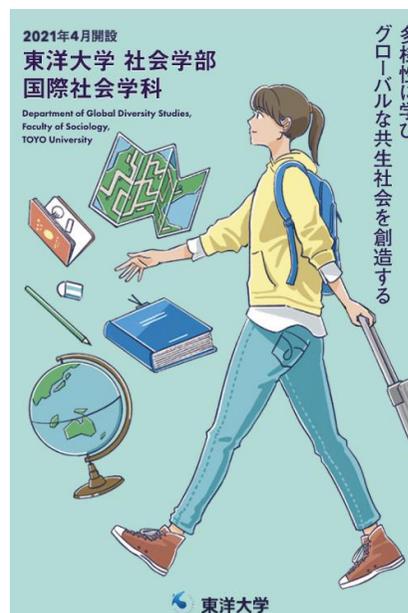
ご清聴ありがとうございました。

- 国際社会学科ウェブサイト



<https://www.toyo.ac.jp/academics/faculty/soc/dgds/>

- 国際社会学科パンフレット





東洋大学

社会学部国際社会学科